

ホストタウン交流始まる！

オラ ニカラグア
Hola! Nicaragua



「Hola」はスペイン語で「こんにちは」という意味です



↑笑顔でコミュニケーションをとる甘楽中学生とニカラグアの選手たち
→こんにやくパークでこんにやく製品をプレゼント

韓国で開かれたU-18(18歳以下)ベースボールワールドカップに出場したニカラグアの選手団27人が甘楽町に滞在しました。これは、台風15号の影響で帰りの飛行機が欠航になった同選手団が成田空港に足止めされているとの連絡を受け、急遽町で受け入れを行い、交流が実現したものです。

9月10日~12日

ニカラグア選手団来町 〜神様がくれたニカラグアとの交流の縁〜



給食後、甘楽中学生と記念写真

選手団は滞在中、群馬ダイヤモンドベガスやこんにやくパークを訪問したり、甘楽中学校で生徒と一緒に給食を食べ、同校野球部と野球交流も行い、友好を深めました。選手団長のエベル・ロペスさんは「神様が導いた縁に団員全員が感謝の気持ちを持っています。ニカラグアでも甘楽の皆さまのことが報道され、国民に知らされています。短い期間ではありましたが、一生忘れることのできない思い出をくれた甘楽の皆さま、ニカラグアと甘楽町の友情に幸あれ！」と話されました。

ニカラグアを知る講演会開催

ニカラグア共和国を広く知る機会を作ろうと、9月に講演会が開かれました。

9月2日



JICAニカラグア事務所の名井弘美所長を講師に迎え、「きつと好きになるニカラグア」の講演会が町公民館で開催されました。町議会議員や教育委員会関係者、国際交流振興協会役員、町職員など約100人が参加し、ニカラグアの歴史や政治、文化、生活習慣などについて理解を深めました。



9月20日



鈴木康久駐ニカラグア特命全権大使を講師に迎え、「ニカラグアの文化と経済」と題した講演会が甘楽中学校体育館で開催されました。参加した同校生徒330人と関係者は、ニカラグアの自然や産業、食べ物や祭りなどの説明を受け、熱心に耳を傾けていました。会場には、ロドリゴ・コロネル駐日特命全権大使も駆け付け、ニカラグアをより身近に感じる機会となりました。



9月20日 ニカラグア料理の給食メニュー化を検討 料理試食会

ニカラグア料理の給食メニュー化に向けた試食会が甘楽中学校食堂で開かれ、給食センター職員や同校教職員が参加し、鈴木康久大使とロドリゴ・コロネル大使も同席しました。青年海外協力隊員としてニカラグアで活動経験のある楊樹奈さん(埼玉県在住)が作ったカルネアサーダ(焼肉)やガジョピント(豆ご飯)など8品を試食し、意見交換を行いました。今後、給食の新メニューとして取り入れられるよう検討していきます。



ニカラグア料理の説明をする楊さん(中央)

9月18日

中南米研修員と園児が交流

JICA青年研修で日本の中小企業振興の技術や制度を学ぶため、9月11日〜28日に県内を中心に滞在していた中南米の研修員など15人が、小幡幼稚園を訪問しました。園児25人は、歌で研修員を歓迎した後、手遊びや鬼ごっこをしたり、ボリビアの研修員による踊りを見て楽しみました。また、一緒に給食を食べ、交流を深めました。研修に同行したニカラグア出身のマルビン・フェルナンデスさんは「甘楽町はとてもきれいで、山の景色はニカラグアと似ている。選手団は日本人の優しさや日本のふるさとを感じられる町をとても喜ぶと思う」と話されました。



手遊びで楽しく交流した園児と研修員



貴重な時間を過ごした甘楽中野球部とニカラグア選手団の皆さん

甘楽中野球部 部長 新井 琉惟さん(2年) 「言葉は通じないけれど、野球を通して初めて海外の人と交流ができ、短い時間でしたが楽しく過ごせました」